

読 響

Yomiuri Nippon
Symphony
Orchestra
55th
Anniversary

私は孤独で、こんなにも愛されている。

Conductor **SYLVAIN CAMBRELING**
Clarinet **JÖRG WIDMANN**

BRUCKNER: Symphony No. 6

in A major, WAB. 106

BRITTEN: Four Sea Interludes from "Peter Grimes"

WIDMANN: Clarinet Concerto "Echo-Fragmente" (Japan premiere)

Subscription Concert No. 574

Sat. 13th Jan. 2018, 18:00 Suntory Hall

指揮 **シルヴァン・カンブルラン**
クラリネット **イェルク・ヴィトマン**

ブリテン: 歌劇「ピーター・グライムズ」から「4つの海の間奏曲」

ヴィトマン: クラリネット協奏曲「エコー＝フラグメンテ」*日本初演

ブルックナー: 交響曲 第6番 イ長調 作品106

読売日本交響楽団 第574回 定期演奏会

2018 1.13(土) 18:00 サントリーホール

S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,000

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休(年末年始を除く)



生命の源、響きの海へ。

19世紀、20世紀、そして今世紀の作品が一曲ずつ並んでいる。カンブルランならではの創意に満ちたプログラムだ。

最初に演奏される「4つの海の間奏曲」は、ブリテンの代表的な管弦楽曲。歌劇「ピーター・グライムズ」の間奏曲から4曲を選び、組曲風にまとめたもので、いずれも海のさまざまな表情がオペラの登場人物の心情と照応するように描かれる。色彩豊かに、そして繊細に変化する「海」が聴こえてくるはずだ。

日本初演となるヴィトマンのクラリネット協奏曲「エコー＝フラグメンテ」が、続いて演奏される。ヴィトマンはクラリネットの名手にして現在ヨーロッパでもっとも注目されている作曲家の一人。今回の演奏でも本人がソリストとして登場、2006年の世界初演(フライブルク)を指揮したカンブルランとのコンビが日本で復活する。

興味深いのは、この曲のオーケストラ・パートは、モダン・オーケストラとバロック・オーケストラの二つに分かれていること(読響の一部がバロック・オーケストラに変身するのにも興味津々)。つまり、ピッチが異なるチューニングをほどこした二群のオーケストラによる波のように揺れる響きのなか、超絶技巧が要求されるクラリネットが縦横無尽に泳ぐという趣向だ。ヴィトマンは英ガーディアン紙のインタビューで「この作品を作曲していたとき、私は揺られる船に乗っているような気分だった」と語っている。ブリテン作品で「海」を描いたオーケストラは、次にその波になって揺れ続けるのだ。

そして、ブルックナーの交響曲第6番は、カンブルランと読響の手にかかれば、もはや響きの海そのもの。ブルックナーの交響曲のなかでは、確固とした構造意識よりも、旋律や響きの美しさが際立つ曲——その瞬間 一つひとつを愛でるかのように、明暢なるサウンドがホールを満たすことだろう。いざ漕ぎいでよ、豊穡なる大海原へ！



©Marco Borggreve

鈴木 淳史 (音楽評論家)

シルヴァン・カンブルラン(指揮)
SYLVAIN CAMBRELING, Conductor

色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導く名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から読響常任指揮者を務め、古典から現代まで幅広いレパートリーを演奏し、高い評価を得ている。現在、シュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督を務めるほか、クララ・フーラム・ウィーンの首席客演指揮者も兼任している。ベルギー王立モネ歌劇場とフランクフルト歌劇場の音楽監督、バーデン・バーデン&フライブルクSWR響の首席指揮者を歴任。ベルリン・フィル、ウィーン・フィルなど世界の一流楽団に客演するほか、ザルツブルク音楽祭やパリ・オペラ座、ルール・トリエンナーレなどでも活躍している。15年3月には読響を12年ぶりの欧州公演へ導き、各地で絶賛された。

イェルク・ヴィトマン(作曲家/クラリネット)
JÖRG WIDMANN, Composer & Clarinet

クラリネット奏者、作曲家、指揮者として世界の最先端を走るドイツの鬼才。1973年ミュンヘン生まれ。ミュンヘン音大でシュタルケに、ジュリアード音楽院でナイディックにクラリネットを学ぶ。ソリストとしてドホナーニ、バレンボイム、エッセン・パッハらの指揮で世界の著名楽団に招かれている。今シーズンもゲルギエフ指揮ウィーン・フィル、ハーディング指揮バリ管などと共演。作曲はヘンツェ、ゲッペルス、リームらに師事。ルツェルン音楽祭、バンベルク響、チューリヒ・トーンハレ管などのアーティスト・イン・レジデンスを務め、器楽曲から弦楽四重奏曲、管弦楽、歌劇まで幅広い編成で作曲している。現在、ベルリンのバレンボイム＝サイド・アカデミーの作曲科教授。

読売日本交響楽団 第574回 定期演奏会

2018年 1月13日(土) 18時開演

サントリーホール

S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C ¥4,000

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

■学生券: 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休(年末年始を除く)

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択してチケットをご購入いただけます(一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く)。*郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド: チケットびあ 0570-02-9999、サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017